

## 病理診断科研修プログラム

### I. 研修について

病理診断は多くの疾患，ことに腫瘍性疾患において現時点では最も本質に近い情報を引き出している。プレパラートという静止した対象であるが，それによって今後の動向を予測するという動的な診断行為である。研修到達目標の症候を動的に経験することはできないが，それに対応する臓器の変化を見ることができる。

将来的に臨床医として診療を続けるにおいても，疾患の本質を知り，適切な治療を行うためにも病理学的知識を持つておくことは有効である。例えば炎症の phase によって治療法を変える必要がある理由の理解，また病理解剖は死に至るクリティカルな病態生理を理解するのに有効である。

当科はこれまで慢性的に人手が不足していたために，病理を勉強し始めた人達が効率良く修得できるよう方法を工夫している。診断技術という経験則に固執するのではなく，科学的で広い範囲に応用の利く思考アルゴリズムが身に付くことを常に心懸けている。

### II. 研修の到達目標

1. 細胞、組織の固定について理解する。
2. 組織，細胞診プレパラートの作製過程について理解する。
3. 手術摘出臓器の全体像と病変との関連を明らかに出来る様な構図を指摘出来るようにする。
4. 組織，細胞診プレパラートの検鏡で，異常が指摘出来るようにする。
5. 免疫組織化学抗体の意義について説明出来るようにする。
6. 病理解剖症例で病態を説明出来るようにする。

### III. 診療科情報(医師数・学会認定医・専門医・指導医)

当院HP診療科ページをご参照ください

### IV. 施設認定

当院HP病院概要ページをご参照ください

### V. 臨床研修指導医講習修了者数

1名

### VI. 1週間の研修例

	月	火	水	木	金
午前	切り出し 迅速	切り出し 迅速	切り出し 迅速	切り出し 迅速	切り出し 迅速
午後	鏡検	鏡検	鏡検	鏡検	鏡検
その他	不定期で夕方から他科の先生とのカンファレンス				

### VII. 評価方法

「研修評価方法」参照